

佳作

ぴいのはなし

福岡県 古賀市立舞の里小学校一年 藤田 一真

がっこうがおわってがくどうにいくとちゅうで、はっぱのうえにあおむしをみつけました。むしかごに連れてそだてることにしました。「ぴい」となまえをつけました。

「ぴいのえさはきんかんのはっぱだよ。」とおとうさんにきいたので、まいにちあげました。くきにしめらせたていっしゅとあるみをまいて、かれないようにしてあげました。

はっぱをなんにちかあげると、ぴいがさなぎになるばしょをさがしはじめました。むしかごのかべのまんなかにとまっておちるのをくりかえしていました。そして、まんなかのすこしみぎのほうでさなぎになりました。ぴいはみどりのさなぎになってうごきませんでした。えさのはっぱをむしかごからとりますと、ぴいのさなぎがちらちらになりました。

ぴいはずっとさなぎのままでした。さなぎのそばにすいかのたねみたいなのがでてきたので、おとうさんとしらべてみると、ぴいははえにきせいされていきました。すいかのたねは、はえのさなぎでした。きせいというのは、さなぎのなかみをほかのおしにたべられた、といういみでした。

しばらく、ぴいをそのままおいておきました。たぐさんかなしくなると、なみだがでてぴいのえをかきました。

ぴいをうめるばしょをかんがえて、がっこうのがくどうのまえにうめることにしました。ともだちにぴいのことをはなしていっしょにうめにいきました。スコップでうめました。ともだちがきてくれてうれしかったです。

みんなにぴいのことをしてほしくて、かみしばいをつくりました。一くみと二くみのともだちのまえでよみました。みんなしずかにきいてくれてうれしかったです。

ぴいがちよようになるところをみてみたかったです。でも、ぴいをそだてることができてもよかったです。おもしろかったです。